

別記様式（第10条関係）

議会報告会等実施報告書 【B班】

令和4年 11月 18日

開催日時	令和4年 11月 8日 午後3時15分 ~ 午後4時15分	
開催場所	健康文化センター 4階 ほほえみ4	
出席議員 (文教福祉常任委員会)	議長 齊木 一三 委員長 大竹 伸一 (司会 報告) 委員 倉知 敏美 委員 近藤 時男 (撮影)	
参加町民数	大口町社会福祉協議会 5人	
実施内容	議会報告会	
	意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> ・大口町社会福祉事業で町民の健康維持を継続する各事業の活動状況 ・おたすけ隊サービス事業の現状 ・ふれあいサロン事業の現状
要望・提言等	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を対象とするこの事業で運営を守りつつ、高齢者の健康を重視し要望と経営の両立を守りたい。 ・参加人数を増やしたい。 ・高齢者の健康を守る事業を経営できる経営体制を考えられるような支援を望む。(詳細は別紙) 	
その他特記事項	特になし	

大口町議会議長 齊木 一三 様

議会広聴広報常任委員会委員長 丹羽 孝 様

文教福祉常任委員会 委員長 大竹 伸一

議会報告会等実施報告者 【B班 別紙】

相手側：大口町社会福祉協議会

作成：令和5年1月10日

文教福祉常任委員会 委員長 大竹伸一

B班：地域福祉事業・ふれあいサロン事業に関し、問題提起があり、以下に要望・提言などを明記する。

視点3：地域福祉事業

懸念：依頼者の要望に応えるべくスピーディな対応の
為のスタッフの増員

社会福祉協議会は協議体・事業体・運動推進隊からなる組織で構成されている団体である。その中のおたすけ隊事業ではサービスを受ける会員数は24名で、依頼される件数は48件もあり、ローテーションや組換えで対応しているのが現状であるが、要望を優先するか、経営を優先するか今後の方向性を見出しつつ事業の継続に取り組まなければならないとのことであった。

視点4：ふれあいサロン事業

懸念：認知症の予防と健康維持を目標に大勢の方々の
参加への呼びかけ

高齢者の認知症予防にもっとも効果が大きいと言われていることは家から外に出る、地域の方々と会話することである、その目的で地域ではふれあいサロン事業に着手され、現在では大方の地域で実施されている、しかし、サロン事業自体がマンネリ化傾向で地域によっては少しずつ低迷しているが、改善する為に新しい事に着手し新しいことを採り入れていくと良いなど提案もあったが、反面経費に結びつくとの問題が提起された。

この危機を乗り越える為の案として、各地区でのふれあいサロン事業を展開している方々との情報交換の場をもちたいとの話もあった。また平成27年当時の予算組みから見直しをされ事業費として変更の経緯があったと説明もあった。社協では業務の向上を図っていくが、苦しい運営に直面している状況下であるため、現状を打破すべく対策を要望された。

以上